

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3164

会長就任のご挨拶

会長 近藤 文治(昭18年卒)



平成10年5月30日開催された洛友会総会において、大谷会長の会長辞任を受けて、新しい会長に推薦されました近藤でございます。

洛友会報1月号に大谷会長が最近の体調について述べられ、辞意を表明されました。私はその前に何度かそのご意志を伺い、先生の体調が甚だ良くないことは充分存じていたのですが、「鳥養先生にしても松田先生にしても、亡くな

るまで会長であられたのです。私は副会長であると同時に常任幹事でもあり、会長を助けるのが私の役目ですから、先生に代わって万事を取り切りますから、心置きなく会長であって下さい。」と、先生のお申し出を受けなかったのです。ところが去る日、1月号の原稿に、会長辞任のことを書いて事務局に提出しておいたので宜しくのご挨拶がありました。私は大変慌てましたが、急遽、常任幹事会を開催し、更に関西在住の副会長大嶋幸一氏ともその取扱を相談しました。私は大谷会長の最も近くにおいて、先生の体調についてはよく知っていたのですが、更に念を入れるため、大嶋副会長と木村常任幹事が会長に直接面談された結果、会長辞任もやむを得ない

との結論に達し、2月に開催された役員会の議を経て、会則に基づき、5月30日の総会で、大谷会長の辞任、私の会長就任が決定された次第です。私としては、無理にでも会長に留まって頂くことをお願いすべきであったかも知れませんが、今年には母校電気工学科の創立百周年に当たり、9月26日には祝賀記念行事が企画されていて、大谷会長は記念行事実行委員長を兼任されていて、体調の関係とは言い、当日欠席は許されないとのお考えから、辞意を固められたと推測しています。会長の任期途中での交替と言う異例の事態が発生しましたのは以上のような事情があつてのことです。ご了承を賜りたいと存じます。

も洛友会のお役に立てばと念じています。会員の皆様におかれましては、前会長同様、何卒格別のご支援並びにご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて私は会長就任に当たって、洛友会とは如何なる目的を持つ組織であるべきかを改めて考えさせられています。言うまでもなく京都大学電気系学科の卒業生の同窓会組織であります。私は洛友会の機能を次のように考えています。

(1) 横割機能 基本的には、同じ学年にあつて学生生活を共にした学年同窓会の集合体であります。同窓生は同じ学生生活を体験し、多くを語りながらも理解し合えると言う特徴があります。相手を呼ぶのに「さん」付は不要です。呼び捨てが普通で、せいぜい「君」で充分です。時にはニックネームで通じます。正に外国で言うファーストネームで呼び合う間柄であります。何事でも、心置きなく相談し助け合える間柄です。同窓年の同窓会が盛んになってこそ、洛友会は活力がでてくるのです。

(2) 縦割機能 電気系学科の卒業生は、一生電気分野で働くのが通例で、いわば同業者であります。こうした中で上下のつながりは大変重要です。学年は違っても先輩後輩のつながりを通して互いに助け合う利点は計り知れないものがあります。各支部の総会の場、支部活動の趣味の会、見学会、遠足会などあらゆる会合を利用して、会員相互が交流を深め、啓発し合う場となるものです。特に若い人は先輩の知己を得、先人の人生経験を学び、自らの仕事や生き方の参考にする場にしたものです。

また卒論を指導して頂いた先生を中心とする講座出身者の集まりも、上下関係を密にする最たるものです。私はこれを「○○講座洛友会」とも称して、洛友会活動の重要な一つと位置づけ、洛友会として、教室懇話会に対する援助と共に、援助の方法を模索したいと考えています。

(3) パイプ機能 洛友会のいま一つの機能として、卒業生と母校を結ぶパイプ役を挙げたいと思います。この度母校電気工学科の創立百周年に当たり、記念行事の費用を賄うため会員の皆様に賛金をお願いしましたところ、不況の真つ只中にも拘らず、早くも目標額を突破いたしました。これ偏に会員の皆様の母校に対する熱い心の現れであつて、母校と会員の皆様とのパイプ役の責任者として、心から厚く御礼申し上げる次第であります。

その他、懇話会に対する援助や、上述の講座洛友会の構想も洛友会のパイプとしての機能の一端に過

ぎません。

いま母校は学部中心の従来の組織から、大学院中心の組織に大きく変わりつつあります。その中でこの4月には、電気系大学院の有力専攻(学部)の学科に対応であった電子通信専攻が、専攻を挙げて工学研究科を離れ、新設の情報学研究科の一部として組み込まれると言う大きな変革がありました。洛友会としてはこうした母校の変革にどう対処して行くのか、大きな問題を抱えています。ただ幸いなことに、学部には従来の電気系3学科(電気工学・電子工学・電気工学第2学科)を学生・教官共に一本化した組織「電気電子工学科」が存続していますので、当面この組織を中心に洛友会を構成したいと思っております。しかし大学院の大変革がいずれ洛友会に影響することは明らかで、教室との連絡を密にして、その推移を注意深く見守って参りたいと思っております。

最後に、大谷前会長の最近の体調について一言します。ご自身が会報の1月号に可なり詳しく書いておられるので、更に付け加えることはありませんが、極く最近も何度目かの軽い脳梗塞のため入院されました。例によって短時間で回復され、後遺症もなく記憶もはつきりされています。度々の発作

に対する要心と持病の腰痛のため、外出は病院通いに限定されています。しかし家庭内で寝た切りと言う訳でなく、杖に頼って起きておられると伺っています。一日も早く昔の元気を回復されることを心からお祈りする次第です。以上少し長くなりましたが会長就任のご挨拶といたします。今後宜しくご支援、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

電気教室百周年

記念事業経過報告

記念事業実行委員会幹事

5月30日に大阪で開催された洛友会総会でもご報告しましたが、記念事業関係のご報告を致します。1、記念行事 平成10年9月26日(土)午後1時～7時京都蹴上、都ホテル(詳細は本号の記念行事ご案内をご参照ください)

内をご参照ください) 2、百周年記念誌の刊行 原稿総数215編で編集作業も終わり、印刷過程に入っており、前記の記念行事までには完成の予定で進んでいます。 3、賛助会員のための教室情報誌「Cue」創刊号は現在印刷中で予定通り今月中に完成します。 4、募金状況(6月15日現在) 洛友会会員からのご寄付…一四四二名 三三三九万四千元 企業からのご寄付…

電気教室創設百周年記念式典関係行事

既にご案内の通り、本年電気教室創設百周年を迎えるに当たり、各種の記念事業を計画しておりますが、そのうち重要なイベントとして今秋行ないます記念行事は、下記のようになっております。

日程 平成10年9月26日(土) 午後1時より7時まで

会場 京都市東山区三条蹴上、都ホテル (TEL:075-771-7111)

行事

1. 記念式典 1時15分～2時15分
祝辞
京都大学 長尾 真 総長
東京大学大学院工学系研究科 羽島光俊 教授
大阪大学大学院工学研究科 西原 浩 教授
「教室百年に思う」洛友会 近藤文治 会長
2. 記念講演会 2時30分～4時30分
関西電力 副社長 宮本一氏 「21世紀のエネルギーと環境」
NTT副社長・関西支社長 浅田和男氏 「デジタルネットワーク社会における日本の役割」
日本電気 取締役 石黒辰雄氏 「エレクトロニクス産業・技術の未来」
3. 記念パーティ 5時～7時

記念式典ならびに記念講演会にご自由にご参加ください。記念パーティは会費制となっております。なお上記に関する直接のご案内内状は、ご寄付いただいた洛友会会員の方々には既にお送りしております。ご醸金がまだの方々には、電気教室百周年記念事業のために、今からでもどうかご協力をお願いいたします。ご寄付再ご依頼の詳細については本号の記念事業経過報告の記事をご参照ください。

会員寄稿

お詫び

183号(4月号)に掲載いたしました「原子力雑感」の著者のお名前が「中野廣」となっておりまして「野中廣(昭27年卒)氏」の誤りでした。お詫びして訂正致します。(事務局)

16社 二二三〇万円
賛助会員ご加入…15社17口
記念事業のための募金につきましては、洛友会会員の方々からのご寄付はお蔭様で3千万円を突破しておりますが、この厳しい経済不況のため、企業からのご協力が遅れております。前号でもお願い致しましたようにできるだけ多くの洛友会会員の方からのご協力をいただきたく、今からの新規のご寄付もどうかよろしくお願い致します。郵便振替の口座番号は「00940-7-1124703 洛友会京都大学電気百周年記念事業実行委員会」、また銀行の場合 は第一勧業銀行 百万遍支店 (番)2011420、住友銀行京都支店 (番)892570となっております。

戦前派の学生

生活と戦争体験

河野勝也(昭9年卒)

洛友会会長近藤文治先生は、戦時中の繰上げ卒業で、昭和18年9月に、小生は昭和9年3月の卒業で、その間は僅か10年余りでした。昔から10年一昔と云いますが、この間には大変革が発生し、二昔にも三昔にも感じられます。

戦前の軍国主義や愛国主義一辺倒の教育を受けた明治生れの小生の思い出を記して、同時代の学友の皆さんの記憶を呼び起してもらい、戦後の若い皆さんに、戦前の状況の一端でも理解して頂ければと思い記憶を頼りに筆を取りました。

当時は、3月の卒業までに就職の内定する者は、通信省(現在の郵政省と通産省)や2、3の研究所関係のみで、せいぜい10数名でした。

小生は、未だ中部電力に統一されていなかった愛知県岡崎市に本社のある電力会社が、秋に火力発電所の工事を開始するから、それまで待っているように言われ自宅に待機していました。そんな時、岡本教授から至急出頭せよと言わ

れました。級友は2、3名しか残っていない、大阪中央放送局から、京大電気卒業生を一人採用したいと申し込まれたとのこと、一も二もなく推薦をお願いして、当時海のものとも山のものとも分らぬ放送界に入り、停年まで30年余り勤めました。その間2年、つづ軍服を着用して、海外で軍の仕事に従事しました。

小生は、在学中のため延期していた徴兵検査を昭和9年8月に岐阜連隊区司令部で受け甲種に合格しました。技術幹部候補生を志願しましたが、数ミリ身長不足のため輜重兵特務兵に編入されました。当時、軍縮のため廃止された陸軍の各個師団の職業軍人の職場確保と、兵力の弱体化を防止する目的で、中学は陸軍大尉、八高は陸軍少佐、京大では陸軍大佐が軍事教練の教官として配属されました。中学や八高では38式歩兵銃を用いた実科訓練(実弾射撃、銃の操法、分解手入れ)時には一泊二日の野外訓練なども行われましたが、京大では学科のみでした。合計9年間の軍事教練を受けましたが、身長が僅か数ミリ不足のため幹部候補生になれないなど聞いたことがないと、佐官級の徴兵官に文句を言いました。そしたら徴兵官は、これからの近代戦では、戦地で各種の応用動作が必要となる。その

時、専門教育を受けた軍人の方々のみの部隊では応用動作ができぬから、戦時編成では各兵科に輜重兵特務兵を配属する。入隊は55日間、よく後は帰休除隊できるからと体よく逃げられました。そして、名古屋の輜重隊に昭和9年12月1日に現役兵として入隊しました。

毎年5回も入隊除隊が繰り返され、大量の特務兵が養成されました。55日間に、駄馬や荷馬車で、弾薬、食糧、医療品、被服などを運搬する馬方の訓練を受けました。起床ラッパで飛び起き、馬屋に行つて屋外に馬を引き出し、水を飲ませ、馬糧を与え、寝わらを補充し馬体を手入れする等、約1時間の重労働でした。それから朝食にありつける有様、朝食前の運動が病み付きとなり、今日まで環境に応じて、ジョギング、ラジオ体操、ゴルフクラブの素振り等を朝食前に続けています。米寿を迎えることが出来た原因と思っております。

理科内類の卒業生の方々は大変苦労されました。

小生等の学生時代は、バイトもパートもなく、専ら級友と麻雀や撞球に現を抜かし、雪が降れば愛宕山へスキーに行き、春秋には北白川道から比叡山に登り根本中堂にお参りして坂本へ降りました。エイトの固定式ボートの使用許可証を学生課でもらい、2人位のスベアを乗せて大津の艇庫から、琵琶湖を洗堰や雄琴あたりまで周遊したり、新京極をぶらついたり呑気そのものでした。

このような時代でしたが、前代未聞の大事件が起こりました。東大の美濃部博士の天皇機関説が軍部を刺激し、同じ学閥の京大の滝川教授も罷免するよう軍部から強烈に要求されました。連日大講堂で罷免反対の学生運動が開かれました。青柳教授が鳥養教授が忘れましたが、泣く子と地頭には到底勝てぬから、軽挙妄動を謹むように論され平穏に授業が続ききました。毎週一回、曜日を決めて、青柳教授が先頭に立たれ、昼休みに教室の周りのポイ捨ての煙草や紙屑や枯葉を拾って清掃しました。当時は未だ缶入りやプラスチックケース入りの飲み物はありませんでした。

昭和19年の繰り上げ卒業のうち、文系の卒業生は特攻隊要員として

訓練され、片道のガソリンのみで敵艦に体当たりさせられ大勢が帰らぬ人となりました。理系の卒業生は、軍需工場や研究所に配属されました。

小生等の時代には、プリント屋のプリントで勉強し、必要最小限の授業に出席するために、京都で短期間の旅館住まいで、下宿も持たないで卒業する文系の学生が沢山いました。

高等文官の受験勉強をする人や家業を手伝う人達でした。当時、文系各部署は全部無試験入学、医学部は5倍前後、工学部や農学部は科により差がありましたが、電気科は、定員50名に対し、80名が受験しました。

小生は仮及第の必須科目が2科目で、辛うじて留年は免れました。然し病気その他の理由で4年在学した方々は、級友が2倍あつて、社会へ出てから大変有利であつたと申しておられました。あながち負け惜しみではないようです。

昭和12年7月7日の滬溝橋の一発の銃声が引き金となり、中支でも抗日軍が上海を圧迫し包囲して、陸戦隊のみでは支え切れなくなり、陸軍の派兵となりました。小生は昭和12年8月に、召集され、岐阜歩兵第68連隊(鷹森部隊)の第3大隊小行李に編入されました。小行李は弾薬医療品を、大行李は食糧、

被服を運搬します。歩兵と共に上海郊外の呉淞に敵前上陸しました。上海を完全に包囲したので内地へ帰れると思ったのも束の間、南京まで毎日30キロ余りを約半月余り行軍して南京に12年12月上旬に入城し、一時マスコミを騒がせた虐殺事件も見ました。その数30万とは白髪三千丈式の誇大形容で7、8千位と覚えています。

数代前の法務大臣ともあろう人が、自衛隊に確認もせず南京虐殺事件は中共のデッチ上げと放言したため、中共から猛烈な反発をくらって、一週間で大臣の椅子から降ろされた馬鹿大臣がおりました。

筆が滑って現代へ来てしまったので、当時に戻します。当時、力学は工学部の各科の必須科目であり、共同講義室で数百名が理学部の玉樹教授から受講しました。ところが、音響処理技術の未開発か、予算の不足か分かりませんが、低い天井で反響が甚だしく、教室の席の前の方の数列より後は、教授の声がまともに聞きとれず、ノートを取ることも出来ませんでした。

或る朝、良い席をと下宿を早く出たのですが、時すでに遅く前部の良い席には、古新聞や週刊誌(当時は漫画本は未発刊)が置かれていました。或るグループの学生が当番制で毎朝代表が席取りを実行していたのでした。八高時代の力

学の椎尾教授と同様に、前記力学の玉樹教授も、日本式ローマ字の有力なリーダーであることを知っていましたので、早速玉樹教授のローマ字で書かれた力学の参考書を読み直して、何の役にも立たずでした。或る日、玉樹教授から呼び出されて落第点を宣告されました。入学直後の授業でノートを借りる学友もなく万事休した旨を申し上げました。事情を斟酌して仮及第にして貰えたかと思っています。

現在と貨幣価値が違いますから、直接の比較はできませんが、当時の物価を参考に記しますと、葉書が1銭5厘、封書が3銭、タバコのパットが7銭、チェリーが10銭、学生食堂の朝食は10銭、昼夕食は15銭でした。特別に贅沢をしないかぎり、月30円で相應の生活が出来ました。賄付きの下宿は殆んどなく、間借りをして学生相手の食堂へ通いました。(つづく)

原子力発電事始め

杉本 宏(昭28新卒)

去る3月31日をもって、日本原子力発電(株)の東海発電所の営業発電が停止されました。この発電所は当時の原子力先進国、英国か

ら導入された日本初の原子力発電所で、32年間に290億kWhの発電、時間稼働率約78%と、素晴らしい実績を挙げて閉幕し、今後炉心の冷却を待つて解体することになりました。4月3日英国から停止記念式典に招かれたメーカ、GECの当時の責任者フレッチャー氏と初期運転を指導した英国原子力公社(AEA)の技術者ウィリアムソン氏ご夫妻を囲む東海OB懇親会が、関係者多数出席して、盛大に開かれました。私は計画段階から約10年間この発電所に関わっただけに、感慨深く、当時の様子について筆を執ることにしました。

私が北陸電力から日本原電の技術部へ出向したのは昭和34年2月で、すでにメーカはGECに決まりました。安全審査は大詰めにきていました。当時の技術部長は吉岡俊夫氏(昭7年卒)で、野中廣氏(昭27年卒)、近藤耕三氏(昭28年卒)がおられ、後に黒見尚行氏(昭34年卒)、藤江孝夫氏(昭35年卒)が加わり、部長室で夜遅くまで議論していたことを思い出します。安全審査から出された懸案事項、コン

サルタントのAEAから提出されたデザインレビューを参考に、GECとの間で設計を詰める事が仕事でした。又、当時の建設部長は東電最新鋭の千葉火力建設所所長を経て来られた辻本進氏で、伊

藤薫氏(昭24年卒)、竹山宏氏(昭26年卒)、山口修氏(昭35年卒)、前川則夫氏(昭36年卒)がおられました。

私は英国でのトレーニングを終えた後、建設部を経て東海建設所に配属されました。他のプラント工事に比し官庁手続きが多く、よく通産省に説明に行きました。この間鍋田隆章氏(昭39年卒)、井上守氏(昭42年卒)、富士電気(株)の宮崎賀寿弥氏(昭36年卒)が加わりました。

試運転段階では予期せぬトラブルが続出し、当初の工程約8ヶ月に対し出力12・5万kWの一部使用許可を得るのに2年、16・6万kWの全出力の合格を手にするのに3年かかりました。この間多くの難問に対処し、落胆と感激の繰り返しでした。

大きなトラブルを大別すると、一つは出力のスケールアップのための実証試験が不十分だったことに起因するもの、今一つは新規開発したもののトラブルでした。前者の中で最大の難問は、蒸気発生器(SRU)のチューブからの蒸気漏れで、原因はガスの流れによって生ずるカルマン渦にチューブが共振して、起こったものでした。原子力の一次系のトラブルは簡単に近づけず、原因究明に時間がかかり、やっと原因が分かってもチ

ューブのジャンクルをどうして一本一本止めるかのアイデアが無く、火力と違うことを身をもって感じたものでした。

新規開発したものの中で、トラブルの多かったものは燃料取換機で、営業運転に入った後も何年間か正常に動かなかったようです。私が担当した分野では緊急時停止装置(ESD)がよくトラブルを起こしました。ESDは地震で黒鉛ブロックが崩れた場合に、ボロンポールを炉心に落下させ原子炉を

確実に停止させる装置で、誤動作並びにMIケーブル短絡でボロンポールを落下させたり、運転中に数個のポールが落下するというトラブルもありました。原因を徹底的に究明すると共に、それぞれの分野の専門家の知恵をかりて試作品を作りテストを繰り返して、漸く解決したことを思い出します。

このように、月単位の遅れを伴うトラブルの連続で、一番苦労されたのは、一本松珠璣社長(大正14年卒)だったと思います。又これらのトラブル対応の現場指揮官は嵯峨根遼吉副社長でした。嵯峨根氏は東大教授、原子力研究所副理事長を経て来られた実験物理の大家で、専門分野の対応は見事なものでした。

営業運転に入ってから、英国製の性能の悪い計器を次々日本製

に取換えていきました。又運転員の削減を目標にローカルパネルからの操作を中央制御室から行えるよう改造を行いました。私は第一回定検完了と同時に北陸電力に戻りました。

東海発電所は英国の自主開発をベースにしていますが、実質的には日英共同で開発した色彩が強かったと思います。ここで多数の技術者が養成され、培われた技術や管理手法はその後の原子力発電の基礎となりました。

さて、21世紀の世界のエネルギー問題を考えますと、今後原子力への期待は益々大きくなると予想され、特にウラン効率が高く、環境に優しい高速増殖炉の開発は不可欠と思います。事故で停止中のもんじゅについて当国民の高速炉に対する不安不信を払拭することは大変だと思いますが、21世紀には、日本で開発された安全で経済的な大型高速増殖炉が、今度は海外に輸出されるようになることを願って筆を置きます。



ルーブルでピアノを

弾く(その三)

坂入武彦(昭33年卒)

筆者は世界原子力発電事業者協会(略称WANO)東京センターの事務局長を長らく勤め、世界各地を旅行した。これは一九九五年四月にパリで開かれたWANO総会に出席したときの旅日記である。いろんなハプニングがありながらとにかく大会は始まり、第一日のランチまで終わった。今回の旅日記は第一日の午後から始まる。

午後のセッションは多少遅れ気味ながら大体予定通り終わった。一般の人はルーブル博物館へ行った後、カールセル・ド・ルーブルでディナーというコースである。ただしこちらはそれぞれでは無い。部屋に戻って楽器をとり、リハーサルに向かう。もう場所はわかってるのでほとんどといったが、着いてみるとみんな集まってはいるものの何となく手持ちぶさたに椅子がない。ディナーのセッ

ティングはもうできていたのだが、椅子が全部下におろされてしまっているのである。しかたなく、みんな床から椅子をステージに持ち上げてリハーサルをはじめたが、そんなことでリハーサルをはじめるのが遅れ、ハイドンをやっただけでおしまいになってしまった。実は私は午前中のリハーサルではモーツアルトは第二章の途中までしかやっていないのでぜひ全曲をやってほしかったのだが、指揮者は「モーツアルトはもういいよ」といつてどこかへ行ってしまった。こうなればぶつつけ本番でゆくしか仕方がない。私もずいぶん演奏会をやったが、合奏の練習なしでいきなり本番をやるのはもちろんはじめである。結果的には演奏のほうは可もなく不可もなくで終わった。もちろん、ぶつつけ本番の人がいることなど誰にもわからなかっただろう。ただ、あとで山田さんに聞くと「東京の時のほうがよかったですねえ」といつていた。私は演奏の前にレミー・カール氏から紹介された。私にとっては演奏に参加したこともいい思い出になったが、ディナーが終始オーケストラの連中と一緒だったので、ドイツの音楽事情その他については大変よかつた。連中と共有した時間はせいぜ

い四、五時間であったがすっかり仲間になった感じで、機会があればまた一緒にやりたいものだと思つた。次の日、早めに起きて今日の予定などをチェックしていたら山田さんから電話があつた。日本の電気事業連合会に会議の様様について中間報告を送りたいのだがどう書いていいのか迷っているという。幸い今日の行動開始までに一時間半ほどあつたので、それでは書きましようということにしてとりかかつた。自分でいうのもおかしいが、過去六年間、こういうことは何度もやってきたので私にとつては大して苦にならない。時間内に書いてしまった。もつともパリの朝は東京の真夜中で、今送つても仕方がないので、その日の議事が全部終わった時点で更に追加することにしてとりあえずできた分だけ山田さんに渡した。

この日は特に用もなく、もちろんオーケストラのリハーサルもないので、ゆつくりとセッションに耳を傾け、メモを取つた。会場に入るとき江上さんに会い、そのま隣の席に座つたが、結果的には一日中隣り合わせであつた。今考えるとお互いにこういう機会はこれが最後だということが何となく頭にあつたのかもしれない。特にこれといった会話を交わしたわけではないが、江上さんは私にそれとなく気を使つてくれ、ああこういうことをやってもらうのもこれが最後だなあとと思うと感慨無量であつた。

この日は山田さんのアレンジで電気新聞の梅村氏と一緒にランチを食べ、取材のお手伝いをした。朝作つた電事連用のメモを渡し、補足説明をした。着いた日とその次の日に来た例のコーヒーショッブでやったのだが、そううるさくなく、しかも何時間いてもかまわない感じで、なかなかよかつた。梅村氏はその後すぐ次の取材地に発たれたので、総会の残りの部分についてはあとで追加メモを作り、ファックスで梅村氏のホテルに送つた。日本に帰つてから梅村氏の記事を見たが、過不足なく間違いない。さて二日目の夜はオペラ・ガルニエでのディナーである。レミー・カール氏とのデュエットの件は、土曜の夜の時点ではまずやらない雰囲気だったので、すっかりやらないと決めて、それ以来練習もしていなかつた。ところがこの日の朝、カール氏に会つたら何やらにやにやして、「今日の夜、楽譜を持ってきてくれるかねえ」という。どうやらまた気が変わった、というかわりつつあるらしい。楽譜を持ってゆくということは楽器も

持つてゆかねばならないということである。面倒だとは思ったがそういういわれた以上叛旗をひるがえすこともできず、楽器と楽譜を持つてデイナーに出かけた。

オペラ・ガルニエというのはいうまでもなく昔のオペラ座であるが、今はオペラが上演されることなく、ときどきバレエの公演がある程度でふだんはほとんど使われていない。その日も公演はなく、絢爛豪華な階段にはいろんなオペラの衣装を人形にさせたものが飾ってあった。我々はまず入り口でさらびやかな衣装をつけたプラスチックバンドの人たちに迎えられ、二階にあがった。全員が入った頃を見はからってファンファーレが鳴り響き、プラスチックバンドの演奏が始まった。

これは見事なものであった。もちろんみんな暗譜で演奏しているのだが劇場を入ったところのバルコニーで演奏しているので残響が多く、ひとつひとつの音はあまりクリアには聞こえない。しかしそれだけに全部の音がひとつひとつで押し寄せてくる感じで、まったく圧倒されてしまった。それによく見るとすべてがバルブのない楽器で、従って曲自体が自然倍音を主体として作られており、もともとよく響くようにできている。メンバーの技量も相当なもので、音程のとりにくい楽器にもかかわら

ず音程もたしかで、それが見事に揃って鳴り響くのだからもうこれは壮観としかいいようがない。ただ困ったのはあまりにも大きな音で鳴り響くので、我々同志の会話がほとんどできないことであった。本来この時間はカクテル・タイムで、参加者が三々伍々会話を楽しくむ時間のはずなのだが、話をしようと思うと相手の耳に口を寄せて大声で叫ばねばならず、会話を楽しむどころではなかった。

ところで私に関していえば、持ってきた楽器と楽譜をどうするか問題であった。それに、もし演奏をするということになれば楽器の音程を合わせておかねばならぬし、だいたいどんなところで演奏することになるのかを見ておかないとどうしようもない。こっそりデイナーの場所を見に行ったら、中央に小さな舞台がしつらえられており、ピアノが据え付けられていた。今晚はオペラ歌手が来てオペラのアリアを歌うことになっていたのでその準備ができていたわけである。ウエイターがぼちぼちデイナーの支度をしている。入っ

てピアノのうしろに隠した。

時間になってデイナーが始まった。まずはオペラ歌手の登場である。エレナ・フィリポーヴァさんというブルガリア生まれのソプラノ歌手で、背はそう高くなく衣装も地味であったが、少し細身の魅力的な人であった。プログラムの配られ、いよいよ始まった。ところが、いざ歌いだしたのを聞くと、どうも歌っている歌がプログラムに書かれているものと違う。もつとも、知らないオペラのアリアを聞かされてもそれがどれかわからないし、だいたい何のオペラであろうとも歌が美しければそれでいいようなものであるが、プログラムを配る以上、特別の事情がない限りそれに従うべきだし、もしなにか理由があつて違う歌を

歌うのならことわりをいうべきである。もちろん東京総会の時はそんなこと加減なことはせずちゃんとプログラム通り演奏したが、そんなことは当たり前である。会議運営のいい加減さは前にも書いたが、こんなところでもそれができてきたのであった。なお、これはデイナーが終わったあとの話であるが、出口でCDをくれたので、見たらオペラのアリア集である。今晚歌った歌をこうして配るのかと思ひ、なかなかしゃれたことをするなといったんは感心したが、

いざ中身を見るとその夜に歌われたものとの関係もない歌ばかり。しかも、オーケストラ、指揮者、歌手などがまったく記されておらず、いったいこれは何だろうと考へ込んでしまった。どうやら海賊版CDであつたらしく、演奏者についての記載がなかったのはそのためらしいのだが、いったいパリ・センターはどこまでこういうことを知っているのだろうかと思ひねつたのであった。

レミー・カール氏とのデュエットは結局実現しなかった。実はデイナーの途中でカール氏のところへゆき、「どうするのですか？」と聞いたら、「会場が広すぎるからやめよう」との返事だったので、それでこのあいまいきわまる話はどうとうおしまひになったのだが、考えてみれば、プロ中のプロがオペラアリアを歌ったことである。専門的に演奏を学んだこともない者がこのこ出ていっても恥をかきただけであつたらう。後で考えてみると我々が演奏しなかったのは正解であつたようである。

私にとってははなはだ本意なことの多かつた総会ではあつたがとにかく主要行事は終了し、あとはテクニカル・ツアーを残すだけになった。次の日の朝、ロビーへ降りて行くとなぐざわめいている。大会が終わつてあとは旅行と

いうことで、みんな何となく浮き浮きしているのであつた。ただし私はWANO七年半でいやというほど外国旅行をしたのでもう旅行はたくさんという感じで、ツアーには参加せずまっすぐ東京に帰ることにしていた。従つて、この日の朝食が私にとっては総会のフィナーレということになる。一人でいろんなことを考えながらゆつくりとトーストを食べていたら、東京センターからロンドンの調整センターに駐在している浜野氏が来た。「今度おやめになるんですか」という。私が六月末でWANOを去ることは各地域センターに簡単なメッセージとして知らせたが、私としてはこのことは極力事務的に処理したかったので、個人に対してはほとんど知らせていなかったのである。改めて浜野氏に対して簡単に事情を説明し、これまでの努力にお礼を述べた。浜野氏はツアーにゆくのあまり時間がなく、別れを惜しむ間もなく発つていったが、これがパリ総会での私の最後の公的業務であつた。ツアーに出かける連中がでていってしまったとホテルは急にさびしくなった。私の便は午後の一時半発なのでゆつくり支度をして空港へ。エア・フランスAF276便はすいていた。帰りの便はいつもくたびれてしまい、何もしないで

来てしまうのだが、今回は特にオ
ーケストラのことなどもあつてか
なりくたびれ、東京に着くまでの
大半の時間は寝ていた。

成田着八時半。これまでならこ
のままオフィスにゆくとところであ
るが、オフィスに行つてもほとん
どだれもいないわけだし、総会期
間中はあらゆる事が停止するの
で急ぎの用件があるはずもないの
で、オフィスに電話だけしてその
まま寮に帰った。

実は私はWANOの関連で合計
七十七回の外国出張をした。この
時のパリ行きはその第七十四回目
にあたる。つまりこのあとまだ三
回外国へ出かける予定があつたわ
けであるがそれらはいずれも東京
センター内の出張で、ヨーロッパ
やアメリカへの長距離の出張はこ
れで終わりである。荷物を整理し
ながら、よく旅をしたものだと思
う。改めて感慨にふけつたのであつた。

なお、ドイツの原子力関係者の
オーケストラ「カメラータ・ニュ
ークリアール」との縁については
後日談がある。パリでオーケスト
ラのみならず別れるとき「是非も
う一度一緒に演奏しましょう」と
言つてさよならをしたのだった
が、先方はそれをちゃんと覚えて
いて、一九九八年十月のヨーロッ
パ原子力会議の席上にカメラータ
・ニュークリアールが招かれるこ

とになったからご一緒にどうで
かとお誘いを受けたのである。場
所はニースである。もちろんゆ
つもりであるが、一年後のこと
ある、何が起るかわからない。
今私はその時期に重要な用件が
つてこなければいいかと念ずる
ばかりである。(完)

○戦中派の学生生活は今回休ま
す。

本部だより

本部総会開催報告

平成10年度、本部総会は去る5
月30日(土)午後4時10分より、大
阪天王寺都ホテル新館にて開催さ
れた。関西支部総会に引き続き行な
つたため、総勢57名が出席し各議
題を審議された。

近藤副会長の挨拶の後、かねて
大谷会長が健康上の理由により、
会長を辞任したい意向を受け入れ、
新会長には近藤文治副会長が推戴
され、満場一致で承認された。

新会長就任の挨拶の中で「洛友
会」は今後、どうあるべきか考え
直す時機であるとの課題について
述べられ、続いて木村警根常任幹
事より、電気百周年記念行事の具

体的な内容についての説明が行な
われた。(別掲記事参照)
平成9年度事業報告並びに決算
報告、平成10年度事業計画案並び
に収支予算案については事務局よ
り報告、説明の後原案どうり承認

された。(決算書、予算書は別表
1、2をご参照下さい)
また、本年4月より新しく情報
学研究科が発足したことに関連し
て、洛友会会則の一部改訂案が提
示され(別掲記事参照)承認された。

報告事項では、田丸副会長より
教室の現況と題して、今年の進学
就職状況、教官の昇格および異動、
情報学研究科の創設に関する説明
が行なわれ、総会は午後5時25分
に閉会となり懇親会に移った。

表2 平成10年度収支予算 (平成10年4月1日~平成11年3月31日)

科 目	予算額	平成9年度決算額	備 考
会 費(学 部)	9,570,000	9,651,000	3,190名分(@3,000円/人)
(講習所)	228,000	237,000	76名分(ヶ)
預 金 利 子	150,000	6,223	
広 告 掲 載 料	140,000	4,299,000	会報新年号140千円のみ
雑 収 入	0	10,000	
仮払金戻入れ	0	1,000,000	
収 入 小 計	10,088,000	15,203,223	
前年度繰越金	9,947,275	10,159,188	
合 計	20,035,275	25,362,411	

表1 平成9年度収支決算 (平成9年4月1日~平成10年3月31日)

科 目	予算額	決算額	備 考
会 費(学 部)	9,800,000	9,651,000	3,217名分(@3,000円/人)
(講習所)	210,000	237,000	79名分(ヶ)
預 金 利 子	50,000	6,223	
広 告 掲 載 料	4,740,000	4,299,000	会報掲載、140千円含む
雑 収 入	10,000	10,000	
仮払金戻入れ	1,000,000	1,000,000	
収 入 小 計	15,810,000	15,203,223	
前年度繰越金	10,159,188	10,159,188	
合 計	25,969,188	25,362,411	

支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	平成9年度決算額	備 考
名簿編集費	0	177,080	
電算機処理費	0	558,572	
印刷費	0	5,728,800	
発送費	0	1,263,527	
会報編集費	0	0	
印刷費	1,350,000	1,691,550	毎号5,400部(年3回に変更)
発送費	1,650,000	2,122,977	
備品費	0	0	
通信費	140,000	123,931	
会員原簿管理費	1,335,000	738,447	電算機処理費(番号変更分685千円含む)
会合費	350,000	301,083	役員会費(含む旅費)
総会費	300,000	300,000	
集金費	200,000	199,210	振込手数料等
消耗費	400,000	404,769	振込用紙、封筒等
旅費	350,000	351,760	支部総会出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	2,872,711	0	別途計算書による
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雑費	0	3,430	
予備費	79,289	0	
支 出 小 計	10,477,000	15,415,136	
次年度繰越金	9,377,652	9,947,275	
合 計	19,854,652	25,362,411	

支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	備 考
名簿編集費	0	177,080	電算機入力資料、 パート代金
電算機処理費	550,000	558,572	
印刷費	5,500,000	5,728,800	
発送費	1,350,000	1,263,527	
会報編集費	0	0	
印刷費	1,650,000	1,691,550	毎号5,500部 (A4判)、4回発行
発送費	2,100,000	2,122,977	
備品費	0	0	
通信費	150,000	123,931	
会員原簿管理費	700,000	738,447	計算機処理費
会合費	350,000	301,083	役員会費(含む旅費)
総会費	300,000	300,000	
集金費	200,000	199,210	振込手数料等
消耗費	350,000	404,769	振込用紙、封筒等
旅費	400,000	351,760	支部総会出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	0	0	
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雑費	0	3,430	
予備費	200,000	0	
仮払金	0	0	
支 出 小 計	15,250,000	15,415,136	
次年度繰越金	10,719,188	9,947,275	
合 計	25,969,188	25,362,411	

平成10年5月13日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関
係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。
常任幹事 松波弘之 ㊦

洛友会会則の一部変更のお知らせ

(平成10年5月改訂)

5月30日 本部総において電気系教室の改組にともない、会員の構成を規定する第5条を次のように変更(アンダーラインの部分挿入)することが承認されました。

第5条 本会は次の会員で組織する。

- 正会員** 京都大学工学部電気工学科・電子工学科・電気工学第2学科卒業生
 京都大学大学院工学研究科電気工学専攻・電子工学専攻・電気工学第2専攻修士課程及び博士課程終了生
 私立電気工学講習所卒業生
 京都大学工学部電気電子工学科卒業生
 京都大学大学院工学研究科電気工学専攻・電子物性工学専攻・電子通信工学専攻修士課程及び博士課程修了生
京都大学大学院エネルギー科学研究科・情報学研究科の関連研究室の修士課程及び博士課程修了生
 役員会で承認を得た者
- 賛助会員** 本会の事業を援助する法人又は個人

洛友会役員

変更のお知らせ

5月30日、本部総会において役員の一部変更が承認されました。

- 会長 昭13大谷泰之(退)
 昭18近藤文治(新)
 副会長 昭18近藤文治(退)
 昭13大谷泰之(新)
 顧問 昭13松尾三郎(退)
 昭18近藤文治(退)
 幹事 昭37松波弘之(退・教室)
 昭34上田皖亮(現・教室)
 昭41藤田茂夫(新・教室)
 ○印は常任幹事 (事務局)

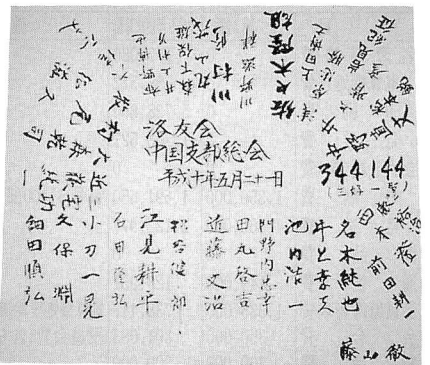
支部だより

中国支部総会

平成10年5月21日(木) 広島全日空ホテルに於て平成10年度洛友会中国支部総会が開催されました。総会には、本部より近藤文治先生、教室より田丸啓吉先生をお迎えし、中国地方各地より松谷健一郎支部長をはじめ、会員37名の参加を得て盛大に実施されました。総会は、中野直文幹事(48卒)の



平成10年度 中国支部総会 H10.5.21 於 広島全日空ホテル



司会で、松谷支部長の挨拶から始まり、次に事務局より、会員の移動状況、支部活動状況の報告を行いました。続いて平成9年度会計報告、平成10年度予算案の説明が行われ、満場一致で承認さ

れました。次に近藤先生から本部の状況報告を、田丸先生から最近の教室の状況について報告をしていただきました。

議事が滞りなく終了し、別室で写真撮影の後、ホテルの最上階にて懇親会に移りました。先生方との歓談、会員同士の交歓などは和やかに進行し、大いに盛り上がりました。また、第1回から今回までの中国支部総会開催地一覧および5回目ごとの総会会報を集めた小冊子「洛友会中国支部総会史」が配布され、洛友会の歴史の深さを実感しました。

午後8時過ぎ、名残の尽きない中、来年の再会を約して散会となりました。

松本鏡(平4年卒)記

九州支部総会

5月22日(金)、博多駅前ホテルステーションプラザにおいて、平成10年度洛友会九州支部総会が開催されました。

当日は、本部から近藤文治先生、教室から上田皖亮先生をお迎えし、支部からは今回初参加の2名を含む計21名の会員が集まりました。

総会は、九州支部では恒例となった二部形式にて行われました。第一部の立食パーティーは、会員



がお互いに自由な会話を楽しめるようにとの配慮で催されているものですが、近藤先生、上田先生を囲んでの歓談、支部の会員同士の交歓などがなごやかに行われました。

会食形式の第二部では、大園支部長挨拶の後、平成9年度の活動実績・会計報告と平成10年度の活動計画についての提案があり、いずれも承認されました。

続いて、近藤先生から軽妙なご挨拶を頂くとともに最近の洛友会の状況についてお話しいただきました。また、上田先生からは、電気系教室の組織再編や教室の百周年事業等についてご報告を承りました。

した。

その後も、電気系の組織が大きく変わりつつある中での洛友会入会資格者の範囲や同窓会のあり方など、議論に花が咲き、話の尽きぬまま閉会の時刻を迎えました。

最後に出席者全員の記念写真を撮り、次回の再会を誓ったところで散会となりました。

榎本孝史(昭63年卒)記

関西支部総会

関西支部総会は、今年は本部総会と合同開催で5月30日(土)に天王寺都ホテル新館にて開催いたしました。今回は昭和7年卒の大先輩から、平成9年卒までの幅広い年代の会員57名の参加をいただきました。

支部総会では井上支部長の挨拶に始まり、

平成9年度事業報告

および決算報告

平成10年度事業計画

および予算編成

平成10年度支部役員改選について審議され、満場一致で承認されました。平成10年度の新役員は、

支部長 安井貞三(昭31)

副支部長 宮本 一(昭31)

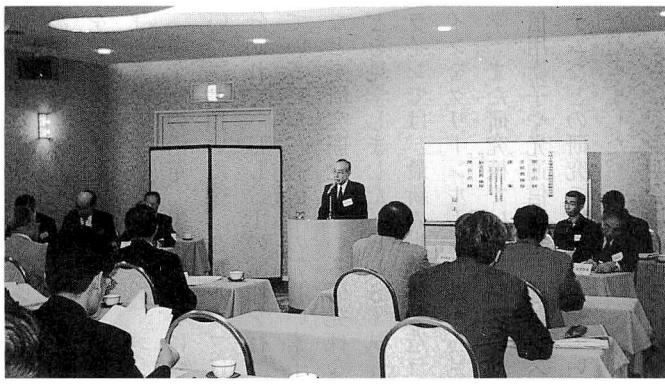
総務幹事 大西豊一(昭50修)

会計幹事 三宅浩二(平元)

の各氏です。最後に新役員を代表して安井新支部長よりご挨拶があり、支部総会は閉会いたしました。なお、今年の家族見学会は11月22日(日)彦根、琵琶湖方面の予定です。

支部総会に引き続き、本部総会が別記の通り開催されたあと、会場を隣室に移し、懇親会を開催いたしました。

懇親会は近藤新会長のご発声による乾杯に始まりました。新会長の乾杯挨拶の中では、初代会長の鳥養先生の「洛友会のパーティーは先輩後輩の懇親のために必ず立食形式にする」というお言葉も紹介されました。



介されました。今回もこの慣例に従いまして、立食パーティー形式でグラスを片手に旧交を暖め合いました。

途中、坂井先生にもスピーチをお願いし、先生から洛友会の歴史、洛友会の現代社会における意義などについて、先生独特のユーモラスな語り口でお話していただきました。

和気あいあいでご歓談いただくなか予定の時間もあつという間に過ぎ、最後は恒例の「洛友会の歌」を全員で斉唱、大嶋副会長の閉会の挨拶で締めくくりまして、来年の再会を誓いながら散会となりました。

則竹博安(昭56年卒)記

第69回関西支部

ゴルフ競技会報告

第69回関西支部ゴルフ競技会が平成10年5月31日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

今回は、平成7～9年の間に、寿栄松元支部長、木村元支部長、鷺見元支部長から寄贈いただいた支部長杯の取切り戦を兼ねており、昭和16年卒の加藤孝一氏を筆頭に、取切り有資格者7名を含む、合計35名(シニアの部11名)によって争

われることとなりました。結果は次の通りです。

- 優勝 藤島 啓(25年卒)
 - 2位 新田東平(35年卒)
 - 3位 橋本進一朗(40年卒)
- (シニアの部)
- 優勝 藤島 啓(25年卒)
 - 2位 大嶋幸一(19年卒)
 - 3位 奥村 徹(25年卒)

- 支部長杯取切り戦
- 優勝 中堀増夫(30年卒)
- (シニアの部)
- 優勝 藤島 啓(25年卒)
- (シニアの部)

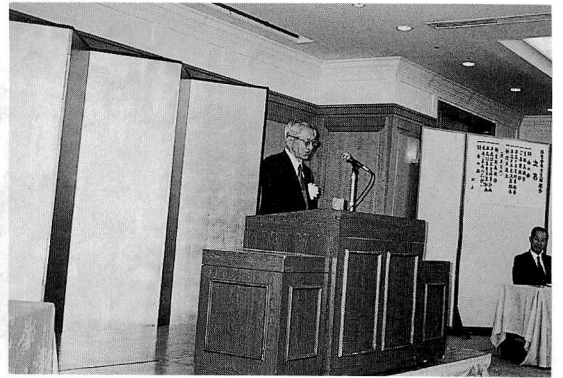
第70回 平成10年10月4日(日)

於 武庫ノ台ゴルフコース
(連絡先)
関西電力 八木 誠(47年卒)
下田一彦(昭4年卒)
TEL 06・7501・0355

東京支部総会

平成10年6月6日(土)に、例年通り目黒の八芳園にて、東京支部の評議員会、支部総会を実施しました。昭和9年卒業の大先輩から平成9年卒まで、総勢64名の会員の参加があり、本部からは近藤文治会長、教室からは松山隆司教授を来賓としてお迎えしました。

評議員会は近藤支部長の挨拶で始まり、平成9年度の行事、予算



9月26日に予定されている電気教室百周年記念式典についてご紹介頂きました。その後、平成9年度予算・決算報告等が審議、承認されました。引き続き平成10年度の新役員を選出し、三橋新支部長の挨拶に続いて平成10年度の行事計画・予算案が審議、承認されました。その後、平成9年度に米寿・喜寿を迎えられた方々(米寿5名、喜寿9名)のお祝いを行ない、出席されていた仁田様(昭9年卒)に代表として、米寿お祝いの目録が手渡されました。

・決算等の報告及び平成10年度予算案説明及び次期役員候補紹介が永井総務幹事より行われ、承認されました。会費納入率を向上させるための対策について活発な意見が交わされ、今後、本部とも相談しながら検討していくこととしました。また、これに関連し、会員への情報提供と活動の活性化等を目的に、新たに洛友会東京支部のホームページを開設する件についてもご紹介し、承認されました。

支部総会では、近藤支部長の挨拶に始まり、本部からのご来賓お二人のご挨拶を頂きました。近藤文治会長(写真)からは、洛友会の状況、会費納入率の低下問題等についてお話し頂きました。また、松山教授から、情報学研究科設立の件を含め、電気系教室の現状と

は、沖電気工業(株)のご厚意で、高尾駅近くの八王子地区事業所内を、総勢約40名で見学させて頂きました。

事業所の沿革、事業内容等について説明頂いた後、3グループに分かれて、ULSIの試作を行っているビル、通信用の新しい素子などを研究開発している研究棟などを見学しました。ULSI試作ラインでは、最新の半導体製造ラインをクリーンルームの外から見学、また研究棟では、超高速の通信素子や光通信素子、通信システムなどの研究の場を見せていただきました。

支部総会の後、恒例の懇親会は近藤現支部長、近藤文治会長のご挨拶の後、廣新副支部長の乾杯で始まり、廣新副支部長、久しぶりに再会した会員の方たちの話の輪があちこちで広がりました。また、米寿を迎えられた仁田吉様、ご長男の仁田周一様、ご三男の仁田三様に記念のスピーチを頂いたりと、和やかなひとときを過ごしました。最後は三橋新支部長の万歳三唱のメド散会しました。

伊藤八大(昭54年卒)記

東京支部見学会

前日の雪が道端に残るなか、平成10年3月6日(金)に恒例の東京支部見学会を開催しました。今回

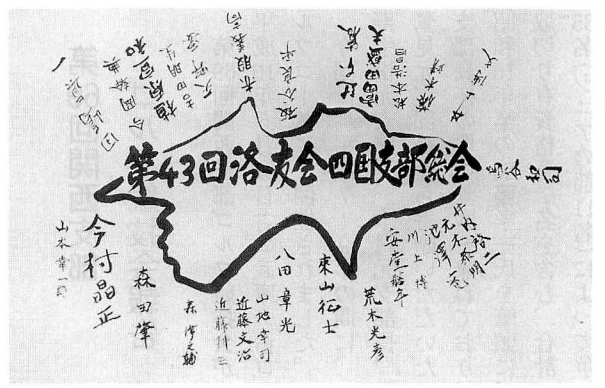
四国支部総会

さらに、説明会場の後ろには、翻訳システムなどの種々研究開発成果の展示及び説明もしていただきました。参加者は皆さん熱心にかつ興味深く見学し、質問も活発でした。

減多に見ることのできない、最新の技術分野、設備の見学をさせて頂き、大変有益な一日でした。

伊藤八大(昭54年卒)記

6月12日(金)、高松市内の料亭「新常磐」において第43回洛友会四国支部総会が開催された。本部から近藤名誉教授(洛友会会長)、



教室から荒木教授のご出席を頂き、四国内からは29名の会員が集まりました。

総会は近藤支部長の挨拶で始まり、洛友会会員の益々の健闘を期待するとともに四国支部活動を元気に盛り立てて行こう等の話があった。

次に近藤先生よりご挨拶を頂き、ご自身が洛友会会長に就任されたことや、本年が電気工学科の創設百周年となること、そして洛友会を通じて世代を越え交流を深めて行こう等のお話を頂いた。また、荒木先生からは電気系教室および工学研究科の再編の経緯や、電気工学科創設百周年記念事業などについてご紹介を頂いた。



第43回 四国支部総会 H10.6.12 於 新常磐

続いて、会務・会計報告、予算案審議が行われた。会務報告では転出入により支部会員数が7名増加したこと等が紹介された。そして、今回支部総会初参加となる森偉之輔氏(昭和32年修)、来山征士氏(昭和42年卒)、八田章光氏(昭和62年卒)から自己紹介があった。会計報告、予算案についても審議はスムーズに進行し、満場一致で

承認された。次に支部役員の改選が提案され、幹事を務められた森田肇氏(昭和41年卒)、山地幸司氏(昭和48年卒)が退任され、新幹事に天野要氏(昭和46年卒)、赤股義高氏(昭和49年卒)が選任された。以上をもって、総会は無事終了した。

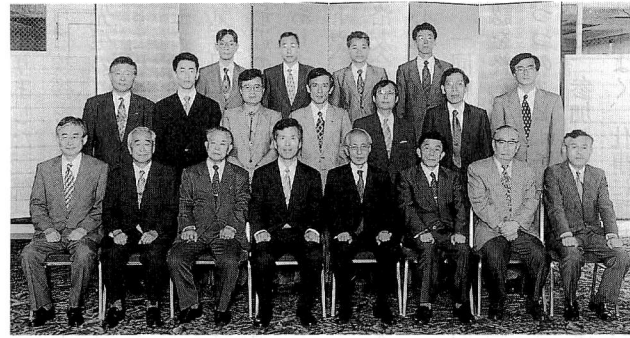
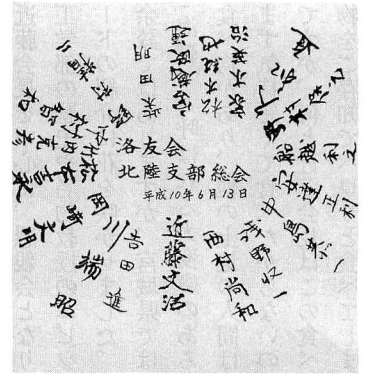
引き続き懇親会に移り、先生方との歓談や久しぶりに顔を合わせた先輩・友人と酒を酌み交わしながらの談笑など、楽しいひとときを過ごした。最後に、全員が肩を組み、恒例となった「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を締め括った。

その後、荒木先生を始め有志一同は街に繰り出し、電気工学談義に花を咲かせ、また、自慢の喉を披露しあい、深夜まで親交を深めた。 榎原宜和(昭63年卒)記

北陸支部総会

平成10年6月13日(土)金沢市「松魚亭」において、平成10年度北陸支部総会を開催いたしました。本部からは近藤文治会長、教室からは吉田進先生をお迎えし、合計19名が出席しました。

西村支部長の挨拶で始まった総会は、近藤会長のご挨拶へと続き、会長就任の経緯、電気系教室百周



北陸支部総会 H10.6.13 於 金沢・松魚亭

年記念行事、会員と会費納入状況についてお話を伺いました。次に、支部近況報告、会計報告と進み、役員改選では、亡くなられた金井顧問(昭5)を除き現役員がそのまま留任となりました。そして、最後に吉田先生から、教室の近況として大学組織の変更について、改組前後の対比を織り混ぜながら詳

しくご説明いただきました。総会終了後、引き続き懇親会に入り、眼下に浅野川と古都金沢の街並みを望みながら、先生方や先輩・後輩、友人と酒を酌み交わして歓談し、楽しい一時を過ごしました。

翌日、近藤会長は加賀百万石まつりのパレードをご覧になった後無事お帰りになされました。

改選された支部役員

顧問 西岡 敬二(昭7)

森本 芳夫(昭16)

野村 精二(昭24)

川端 昭(昭28)

支部長 西村 尚和(昭23)

副支部長 羽場 保弘(昭39)

中島 恭一(昭40)

評議員 杉本 宏(昭28新)

堀 英二(昭29)

金森 閔治(昭40)

柴田 明(昭40院)

宮越 政通(昭41)

西念 勉(昭46)

幹事 安達 正利(昭46院)

久和 進(昭47)

堀 祐一(昭51)

竹内 克彦(昭57)

竹内克彦(昭57年卒)記

中部支部総会

中部支部の平成10年度総会は6

月20日11時30分から、名古屋駅前の名鉄グランドホテルで開催されました。本部・教室から近藤会長、松波教授にご出席頂き、支部からは大正13年卒の本多顧問をはじめ14名が参加しました。

大野支部長の挨拶の後議事に入りました。まず支部役員については全員留任とし、可決されました。次に平成9年度事業および会計

報告並びに平成10年度事業計画と予算案が一括してはかられ、満場一致可決されました。事業計画は平成10年度中部支部事業計画をご覧ください。7月4日(土)の囲碁大会には本多顧問も参加されます。

総会について、近藤会長からまず中部支部の本多顧問が今年満百歳を迎えられ、お元気で総会に出席されておられることに対し喜びを、そして「3年後の二十一世紀には洛友会で初めて3世紀生きるといふ快挙をあげられることは確実」とお祝いを述べられました。

次に大谷先生の体調が思わしくない事、9月の百周年に向けて「その任が果たせない」と会長辞任を申し出られたので、やむなく副会長の私が会長の重責を担うことになったとのご説明が有りました。近藤先生が昭和27年洛友会創設以来、約50年にわたって幹事・事務局長を務めた経緯から「7月

号に洛友会に対する私の考えを述べた」とお話が有り、ひき続き洛友会の現況についてご説明頂きました。松波教授からは最初に、昨年12月教室の長尾真先生が京大大学の総長に就任されたこと、これは昭和23年鳥養先生以来50年振りの事とお話があり、次いで教室の現況と9月26日開催の百周年行事についてご説明が有りました。

総会終了後、記念撮影、ひき続き懇親会に入りました。本多顧問より一回りお若い(?)昭和8年川端さんの御発声による乾杯に始ま



り、先生方との歓談や久しぶりの先輩・友人と酒を酌み交わしながらの談笑と、恒例の「近況報告」予定した時間は瞬く間に過ぎ、来年の再会を約し散会しました。

石川進(昭26年卒)記

平成10年度

中部支部事業計画

1 懇親囲碁大会

日時 7月4日(土)時
場所 名古屋通信ビル

ベルサロン

2 懇親ゴルフ大会

日時 10月3日(土)
場所 鳴海カントリークラブ

3 家族同伴 秋の例会

日時 11月14日(土)
名鉄メルサ西口8時出発
行き先 高山市
石川進(昭26年卒)記

東北支部総会

第33回洛友会東北支部総会は、6月27日仙台市「天繁」にて開催されました。本部からは近藤会長をお迎えし、合計7名が集いました。

総会は、大家支部長のご挨拶で

始まりました。続いて近藤会長からご挨拶をいただきました。大谷先生のご近況や、会長職を引受けることになった経緯についてユーモアを交えながら話された後、電気百周年記念事業の準備状況や、最近の教室の動向についてお話がありました。特に会費納入率の低下や、教室の区割りの変更による洛友会の位置付け等について大変心配されている様子でした。

一同乾杯の後に、会計報告の承認を終え、恒例となった会員一人づつのスピーチへと移っていきました。参加した会員は皆、健康状態もよく、仕事に興味にと追われる毎日であるとの近況報告がありました。特に大家支部長は、日本初の惑星探査衛生「プラネットB」の計画推進の中核を担われていたとのことで、大変ご多忙中の総会参加でした。(後日の報道の通り衛生は無事打上げに成功。おめでとうございます。)

スピーチの後は、会食しながら近藤会長を中心に、懇親会となり、工学部の歴史や名物教授のエピソードの紹介に花を咲かせました。

余談ではありますが、宮城県では「海鞘」と呼ばれる大変癖のある食べ物があり、他の土地の人間はまず気持悪くて食べたがらないのですが、何と近藤会長はこの食べ物をご存知でペロリと食べてしま



われ、一同驚嘆してしまいました。話は尽きず、場所を近藤会長お泊まりのホテルに移して、更に2時間余り話し込み、名残りを惜しみながら、来年の再会を誓って散会しました。

尚、近藤会長は次の日、大家支部長の案内で、福島県飯館村にある、電波観測所にお立寄りになりました。

伊藤 篤(平成元年卒)記

卒業50周年の同窓会

高橋充夫(昭23年卒)

電気教室創立百周年の今年は、我々昭和23年卒業の者にとって卒業50周年の年でもあります。昭和20年4月の入学で、その8月に第2次世界大戦の終結、戦後の厳しい食糧難と激しいインフレ、でも

静かな京都で楽しかった学生生活。卒業後は日本の復興・高度成長期に巡り合わせて活躍出来た半世紀など、クラスメートには深い共通する想い出があります。

このクラスは、終戦のさい編入した航空工学科の諸君を併せ、現在の在席64名で、関西では銀杏会(昭20年入学)、関東ではおぼろ会(昭21-24年卒)が随時、懇親の会を開いています。50年を機会に全国の同期諸君が集まって記念の同窓会を開こうと言うことになり、5月15日・葵祭りの日に京都・平安会館で開催。懐かしい京都の観光を兼ねて43名が出席し、ご婦人方7名の参加もあって、久方ぶりの邂逅を楽しみました。いづれも初老の紳士の風貌ですが、まだ現役の者・趣味に明け暮れる者・健康維持の秘伝など話は尽きず、夜遅くまで賑やかに旧交を暖めることができました。

ことのできました。(同期の諸君へ) 銀杏会の案内は、関西以外にも連絡しますから、必要の向きはお知らせ下さい。

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。

近畿地方では平成5年より遅い梅雨明けとなりました。会員の皆様には暑さに負けず各界でご活躍の

こと、お慶び申し上げます。目下、京の町は祇園囃子に代わって蟬時雨で賑わい暑い毎日です。洛友会は巻頭言のとおり、近藤新会長のもとに新しい運営が始まりますが、目前に迫った百周年記念事業が起爆剤となり、洛友会活動の関心が高まるよう期待しております。記念行事に参加され、盛大なイベントとなりますよう祈念いたします。

事務局 松本 博

計 報

大13	西 兼通	10.3.7
講昭3	小島兼三郎	9.6.17
昭4	安達 遂	10.2.9
昭10	山口吉祐	10.6.13
昭13	西堀 博	9.12.15
昭13	山本三千雄	9.9.20
講昭14	馬杉義治	9.6.27
講昭14	松本 亮	10.1.25
昭15	蛙子隆雄	9.12.19
昭16	安達賢一	10.2.3
昭19	橋本南海男	9.12.11
昭27	龍澤善信	10.3.2
昭31	岩住哲朗	10.3.23
昭32	山崎慎之輔	10.1

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。